

川崎市のまちづくり

(1) 歴史

概要	<ul style="list-style-type: none"> ▶江戸時代、江戸へ向かう旅人の最後の宿泊地として東海道川崎宿が設置されたことにより、大きく発展 ▶1924(大正13)年、川崎町・御幸村・大師町が合併し川崎市が成立。当時の市域は、現庁舎敷地周辺の地域(川崎区西部・幸区東部)のみ ▶1927(昭和2)年以降、近隣町村の編入により市域が拡大 ▶1938(昭和13)年、本庁舎本館竣工 ▶1939(昭和14)年、埋立地を除き現在の市域が確定 ▶戦後、湾岸部に大規模な石油コンビナートが形成され、工業都市として復興。内陸部は東京のベッドタウンとして急速に開発が進行 ▶1972(昭和47)年、政令指定都市となり川崎区・幸区・中原区・高津区・多摩区の5区が誕生 ▶1982(昭和57)年、分区により宮前区・麻生区が誕生。7区制となり、現在に至る。 			
	川崎市全体	現庁舎敷地周辺	武蔵小杉駅周辺	武蔵溝ノ口駅周辺
略年表	<ul style="list-style-type: none"> ・1924(大13)年、川崎町・御幸村・大師町が合併し川崎市が成立 ・1927(昭2)年、南武鉄道線(現・JR南武線)川崎駅～登戸駅開業 ・1938(昭13)年、本庁舎本館竣工 ・1939(昭14)年、柿生村・岡上村が川崎市に編入。埋立地を除き現在の市域が確定 ・1972(昭47)年、政令指定都市となり川崎・幸・中原・高津・多摩の5区が誕生 ・1973(昭48)年、市人口100万人突破 ・1982(昭57)年、人口増加に伴い高津・多摩区にて分区が行われ、宮前区、麻生区が誕生し、現在の7区制となる。 ・2009(平21)年、市人口140万人突破 	<ul style="list-style-type: none"> ・1872(明5)年、品川～横浜間の鉄道の開通(現・JR東海道線)により川崎駅誕生 ・1912(明45)年、日本鋼管(現、JFEスチール)川崎製鉄所設立。臨海部の工業化開始 ・1938(昭13)年、本庁舎本館竣工 ・1959(昭34)年、本庁舎北館竣工 ・1961(昭36)年、第2庁舎竣工 ・1990(平2)年、第4庁舎竣工 ・1993(平5)年、第3庁舎竣工 	<ul style="list-style-type: none"> ・1927(昭2)年、南武鉄道線グラウンド前停留場(現・武蔵小杉駅)誕生 ・1933(昭8)年、中原町が川崎市に編入 ・1990(平2)年、中原区役所竣工 	<ul style="list-style-type: none"> ・1927(昭2)年、南武鉄道線武蔵溝ノ口駅誕生 ・1937(昭12)年、高津町が川崎市に編入 ・1992(平4)年、高津区役所竣工

(2) まちづくりの視点

川崎市全体

都市構造の基本方針
(新総合計画川崎再生
フロンティアプランより
抜粋)

広域的視点を踏まえ、各都市拠点の魅力の創出をめざす「**広域調和型**」のまちづくりと、市内各地域の自立と連携をめざす「**地域連携型**」のまちづくりをバランス良く進め、「**広域調和・地域連携型**」都市構造の構築をめざす

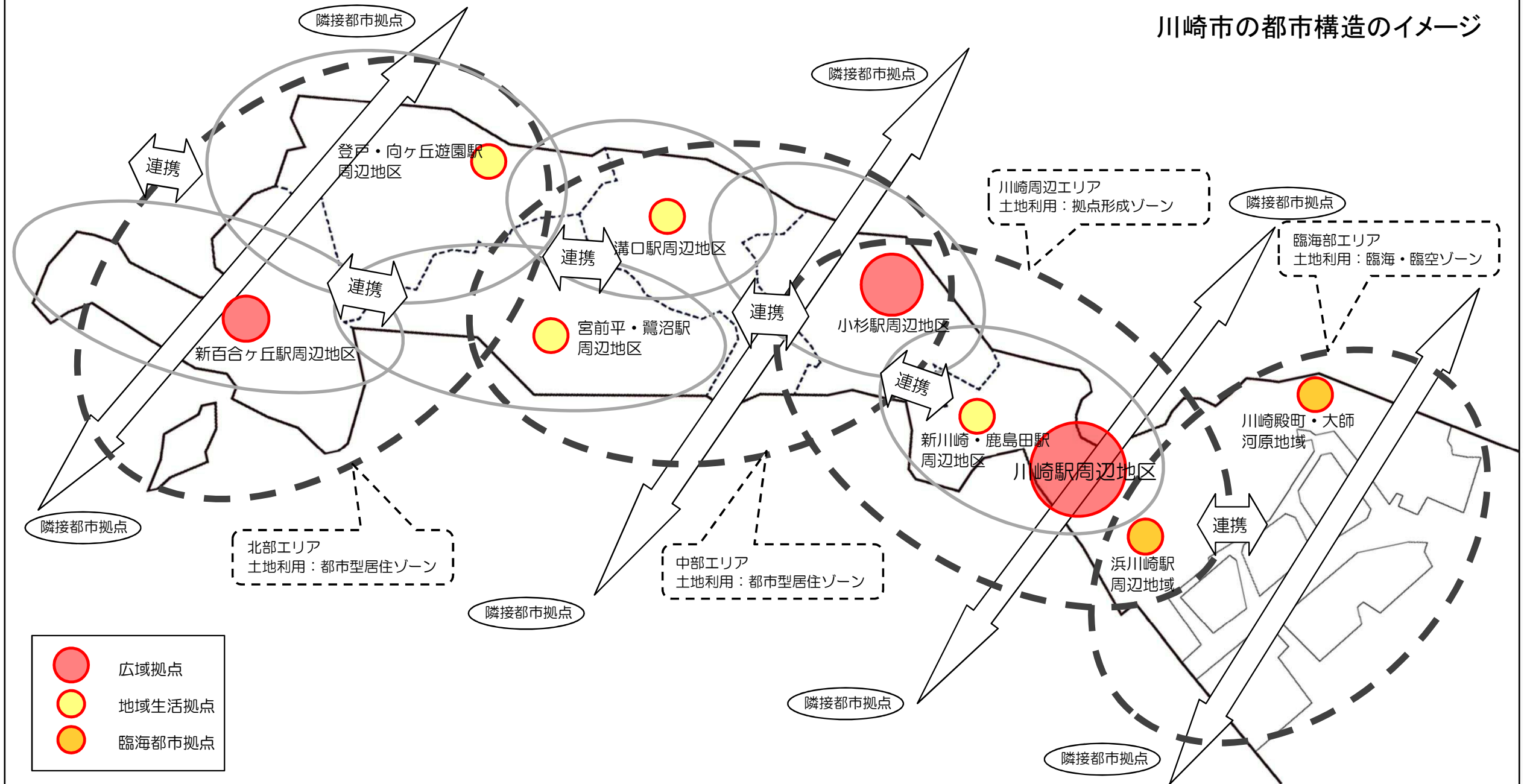
※**広域調和のまちづくり**

市外の隣接都市拠点との役割や機能の適切な分担、補完を図りつつ、個性と魅力ある拠点整備を進めることで、首都圏における川崎市の拠点性と都市機能の向上を図る持続可能な「広域調和型」のまちをめざす

※**地域連携のまちづくり**

おおむね行政区を単位とした「地域生活ゾーン」の自立と相互の連携を促し、都市の一体性と都市機能の向上を図る「地域連携型」のまちをめざす

イメージ図



	現庁舎敷地周辺	武蔵小杉駅周辺	武蔵溝ノ口駅周辺
土地利用の基本方針 (川崎市都市計画マスタープランより抜粋)	川崎市の中心な「広域拠点」として、 中枢機能や広域的な商業機能、文化・交流、行政等の高次な都市機能の集積を図る	川崎中部の「広域拠点」として、 商業・業務・文化交流・研究開発等の諸機能の集積を図る	高津区の拠点として、 商業・業務・文化機能等の諸機能の集積を図る
都市拠点整備の方向性 (新総合計画川崎再生フロンティアプランより抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> ●広域的な集客機能を備えた活力と魅力にあふれるまちづくり ●羽田空港へのアクセス性等の立地特性を活かした、民間主導による都市機能の再編整備 ●川崎駅北口自由通路等の整備による東西の回遊性及び利便性の向上や、川崎駅東口の総合自転車対策など、社会的ニーズに対応した拠点機能の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ●利便性の高い都市生活環境を備えた活力と魅力あふれる広域拠点の形成 ●駅を中心とした多様な都市機能のコンパクトな集積 ●多摩川など周辺環境資源との連携による広がりのある都市空間づくり ●市民や事業者、行政の連携・協働によるまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ●広域的な集客力のある商業施設と地域に密着した商店街が共存する、回遊性、界限性のある商業・文化拠点の形成 ●周辺の自然環境や文教施設、歴史的・文化的資源を活かした、魅力と賑わいのある地域生活拠点の形成 ●市民、事業者、行政それぞれの工夫と連携による、より良いまちづくり ●南口駅前広場の整備の推進による交通結節機能の強化
まちづくり概念図	<p>川崎駅周辺地区のまちづくり概念図</p>	<p>小杉駅周辺まちづくり推進地域構想 まちづくり概念図</p>	<p>高津区 都市構造方針図</p>